第6章　関連事業

関連事業の概況

NHKの関連団体は，それぞれの事業分野でNHKの業務を補完・支援し，NHKグループの一員として，NHKとともに豊かで多様な放送文化の創造に努めることを基本的な役割としている。

NHKの業務の効率的推進により経費の節減を図ると同時に，NHKのソフト資産・ノウハウの利活用や社会還元を進め，副次収入等での財政的寄与により視聴者の負担を抑制していくことを目標として運営されている。

今後も，関連団体に対するガバナンスの強化をより図るとともに，効率性と公共放送の質の確保を一層進めて，NHKグループ全体の総合力を高めていく。

1．関連団体の概要

17年度末現在，NHKの関連団体は，子会社13社，関連会社４社，関連公益法人等９団体の計26団体，総従業員数は6,444人である。（⇒p.678）

2．関連団体の決算概要

17年度の関連団体決算は，健保・共済会を除く24団体の単純合計額で，売上高（事業収入）3,002億円（対前年度85億円増），当期純利益（正味財産増減額）100億円（対前年度10億円増）であり，増収増益となった。

関連団体によるNHK副次収入への寄与額は，対前年度１億円増の59億円になった。

今期決算に伴う配当は，対前年度46億円減の42億円で，うちNHKの受取額は，対前年度31億円減の26億円となった。

3．団体に対する出資など

17年度は，新たな関連団体への出資や増資はなかった。関連団体以外への出捐（しゅつえん）・出資については，一般放送事業者の教育・教養番組の一層の充実を図ること等を目的とする公益財団法人「放送番組センター」に5,659万円の出捐を行った。

Ⅰ．関連団体への番組制作委託

NHKでは，コンパクトな番組制作体制の下で質の高い放送番組を安定的に確保するため，17年度も関連団体への番組制作委託を進めてきた。

また，番組の一層の多様化を図るため，関連団体を通じて，番組制作会社にも企画提案を求め，一部の番組制作を委託した。

関連団体への委託では，NHKエンタープライズに，『NHKスペシャル』などの大型企画番組，ドラマ番組（『土曜ドラマ』など），芸能番組（『ザ少年倶楽部』など），自然番組（『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』など），アニメ番組（『アニメ　おじゃる丸』など）の制作，購入番組の日本語版制作などの委託を行った。

NHKエデュケーショナルには，『きょうの料理』『おかあさんといっしょ』『日曜美術館』『先人たちの底力　知恵泉（ちえいず）』など，生涯学習や教育･教養に関する番組の制作を委託した。

NHKグローバルメディアサービスには，大相撲，プロ野球をはじめとするスポーツ番組や，『国際報道2017』『東京マーケット情報』などのニュース・情報番組を委託した。

NHKサービスセンターには，『NHKプレマップ』などの広報番組や各種番組スポットなどの制作を委託した。

NHKプラネットには，『うまいッ！』『きらり！えん旅』などの番組を委託した。

日本国際放送には，『J-MELO』『TOKYO FASHION EXPRESS』などの国際放送番組を委託した。

Ⅱ．放送番組等の二次展開

1．映像・音声商品等の発行

NHKエンタープライズからは，「NHKビデオ・DVD」の名称で，『連続テレビ小説』の「ひよっこ」「わろてんか」，『大河ドラマ』「おんな城主直虎」，『ドラマ10』「ツバキ文具店～鎌倉代書屋物語～」，『NHKスペシャル』「シリーズ　ディープ・オーシャン」，『おかあさんといっしょ　メモリアルPlus（プラス）～あしたもきっとだいせいこう～』などの映像商品を発行した。

また，NHKサービスセンターからは，「NHK CD」の名称で『基礎英語』などの月刊語学教材や『NHK名曲アルバム』『NHK昭和名人寄席』『立川談志　落語集成』などの音声商品を発行した。

2．放送番組および素材の提供

（1）企業・団体への番組の提供

一般企業・団体，自治体の展示，イベント用な

どにNHKエンタープライズ等を通じて放送番組を提供した。

（２）BS・CS放送事業者への番組提供

NHKエンタープライズを通じて，CS放送事業者等に『連続テレビ小説』の「あまちゃん」「ごちそうさん」，『大河ドラマ』の「義経」「利家とまつ」，『BS日本のうた』などを提供した。

（３）CATVへの番組提供

NHKエンタープライズを通じて，『大河ドラマ』「龍馬伝」，『連続テレビ小説』の「ゲゲゲの女房」「カーネーション」，『忍たま乱太郎』などを提供した。

（４）機内上映用の提供

航空機の旅客サービス用として，NHKグローバルメディアサービスを通じて日本航空，全日本空輸などへ『NHKニュース』を，NHKエンタープライズを通じて日本航空，全日本空輸などへ『歴史秘話ヒストリア』『LIFE！～人生に捧げるコント～』『The Covers』『超入門！落語　THE MOVIE』などを提供した。

（５）番組素材の提供

民間放送局および一般企業・団体への番組素材の提供をNHKエンタープライズを通じて，また，放送大学学園への番組素材の提供をNHKエデュケーショナルを通じて行った。

（６）キャラクターの使用許諾

NHKエンタープライズが，『いないいないばあっ！』などの幼児番組や『ねほりんぱほりん』などのキャラクターの使用許諾を行った。

３．デジタル事業

NHKグローバルメディアサービスが行うスマートフォン等のモバイル端末向けのサービスに対し，NHKのニュースや番組の楽曲などの提供を行った。

４．番組・素材の海外提供

関連団体を通じて，番組とニュース素材を海外の放送機関などへ提供した。NHKエンタープライズからアニメやドラマ，自然番組，教育番組などを提供，日本国際放送からは「NHKワールドプレミアム」を配信した。

開発途上国の放送機関などには，NHKインターナショナルと連携し，「番組国際ライブラリー」の保存番組を公的資金によって提供した。

番組・ニュース素材については，NHKインターナショナルを通じて，海外の放送機関や一般団体へ提供した。また，デジタルクリップを制作し，オンラインによる提供も行った。

５．放送番組関連の出版

『NHKスペシャル』から「日本人と象徴天皇」「介護殺人」など時事性があり，社会的関心が高いテーマを書籍化。また，息の長い書籍もあり，『老後破産』が文庫化され４刷，『昔話法廷シーズン２』が６刷に達した。

関連団体

Ⅰ．子会社

１．NHKエンタープライズ

NHK番組をはじめとする数多くの映像コンテンツの制作，イベントの企画制作，ライセンスの許諾，デジタルコンテンツ制作，商品の販売などを手がけ，NHKグループの一員として日本のコンテンツ産業の発展に尽力している。

17年度，映像コンテンツの分野では，ドラマやドキュメンタリー，アニメ，エンターテインメント番組など，NHKのテレビやラジオ番組およそ１万3,200本の番組を制作した。18年12月から始まる，「新４Ｋ８Ｋ衛星放送」の開始に向けて高精細映像による番組制作を加速した。『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』『ニッポンの里山　ふるさとの絶景に出会う旅』『にっぽん縦断　こころ旅』など定時番組のほか，『NHKスペシャル』「黒潮～世界最大　渦巻く不思議の海～」，『BS時代劇』「大岡越前４」，『SONGS OF TOKYO』など特集番組で２Ｋ４Ｋ一体化制作を進めたほか，『秋田大曲　全国花火競技大会2017』『うたコン』『一本の道「“美の島”楽園の道を歩く～フランス・コルシカ島」』『メガシティ大発光「空から見た東京夜景」』『紅白歌合戦』などを８Ｋで制作した。

総合テレビでは『あの日　わたしは～証言記録東日本大震災～』『所さん！大変ですよ』『超入門！落語　THE　MOVIE　シーズン２』，『土曜ドラマ』「植木等とのぼせもん」，『土曜時代ドラマ』の「みをつくし料理帖」「アシガール」，『チコちゃんに叱られる』のほか，『今夜も生でさだまさし』『ごごナマ』『ニュース　シブ５時』などの生放送番組を制作した。また，３年目の放送となる『大河ファンタジー　精霊の守り人～最終章～』は今シリーズで22本の放送が完結した。

Eテレでは『ムジカ・ピッコリーノ』『日本の

話芸』『Eダンスアカデミー　シーズン５』，アニメの『おじゃる丸』『忍たま乱太郎』などを制作した。

BS1では『地球タクシー』『GREAT　RACE～グレートレース～』『球辞苑～プロ野球が100倍楽しくなるキーワードたち～』『BS世界のドキュメンタリー』のほか，20年に東京を目指す人々を追った『世界はTokyoをめざす』などを制作した。

BSプレミアムでは『スーパープレミアム』で「探検！ツタンカーメン王墓」「玉木宏　音楽サスペンス紀行～マエストロ・ヒデマロ　亡命オーケストラの謎～」「秘境中国　謎の民　天頂に生きる」などの特集，『世界ふれあい街歩き』『梅沢富美男と東野幸治のまんぷく農家メシ！』『ワイルドライフ』『新･BS日本のうた』『ザ少年倶楽部』『クラシック倶楽部』『にっぽん縦断　こころ旅』などに17年度からは『美と若さの新常識～カラダのヒミツ～』も加えた定時番組と，幅広いジャンルの番組を制作した。

「第72回文化庁芸術祭賞」では，４K／HDR制作の『特集ドラマ』「眩（くらら）～北斎の娘～」が文化庁芸術祭テレビ･ドラマ部門で大賞を受賞，制作に加わった『NHKスペシャル』「戦慄の記録インパール」がテレビドキュメンタリー部門で優秀賞を受賞した。

イベントの企画制作では，「ロボットコンテスト」の各大会「NHK学生ロボコン」「ABUロボコン」「高専ロボコン」をそれぞれ実施，今年30年目の「高専ロボコン」の全国大会は初めて総合テレビで生中継された。16回目となる「東京JAZZ」は初の渋谷開催となった。ミュージカル「忍たま乱太郎」は千葉と大阪で開催し約１万5,000人の集客を記録した。東京2020関連では，東京2020公認教育プログラム「全日本なわとびかっとび王選手権」や，東京都庁前でプロジェクションマッピングを実施した。

展示事業では，静岡県浜松市で「おんな城主直虎」の大河ドラマ館を制作，入場者数77万8,000人を記録した。

番組の提供では，NHKで放送された番組を中心に，CS／CATV放送局，VOD事業者，航空会社（機内上映用）などに提供した。

デジタルコンテンツ制作では，ウェブサイト，データ放送，動画配信，４K･８K制作などのコンテンツ制作に取り組んだ。ピョンチャンオリンピック・パラリンピックの放送に併せ，NHKのオリンピックホームページを制作，競技映像の４K動画配信も併せて実施した。ロボコンではライブ･ストリーミングを実施し，特に「ABUロボコン」では初の自動翻訳による12カ国語世界配信を実現した。

映像ソフトの販売では，CDショップや通販各社，オンラインショップ「NHKスクエア」などを通じて，『大河ドラマ』「おんな城主　直虎」，『連続テレビ小説』の「ひよっこ」「わろてんか」，韓国ドラマ『オクニョ　運命の女（ひと）』といった放送番組に加え，『紅白歌合戦』『レッツゴーヤング』などアーカイブス資産を活用した再商品化に取り組んだ。

また，17年度も被災地復興支援として，DVD「証言記録　東日本大震災」の売り上げの一部から，NHK厚生文化事業団を通じて約30万円，「花は咲く on ICE～荒川静香　羽生結弦～」の売り上げの一部から，JOCを通じて約12万円の震災復興地支援寄付を実施した。

２．NHKエデュケーショナル

Eテレを中心に年間およそ１万1,000本のNHK番組を制作している。同時に番組を展開した映像ソフトやイベント，展覧会の展示映像，通信教育教材など多彩なコンテンツを生み出し，さまざまなメディアを通じて提供している。

17年度は，Eテレでは新番組として『えいごであそぼ with Orton』『エイゴビート』『#ジューダイ』『あしたも晴れ！人生レシピ』などを制作したほか，定時番組では『SWITCHインタビュー　達人達（たち）』『100分de名著』『きょうの料理』『すてきにハンドメイド』『きょうの健康』『すイエんサー』『テストの花道　ニューベンゼミ』『Rの法則』『スーパープレゼンテーション』『おかあさんといっしょ』『すくすく子育て』『NHK高校講座』『語学講座』など，特集番組では『祝60歳　きょうの料理伝説60』『デザインあ　おとなスペシャル』『まるごと見せます！世界の教育コンテンツ～日本賞2017～』などを制作した。

総合テレビでは新番組として『ごごナマ』『人名探究バラエティー　日本人のおなまえっ！』『明日へ　つなげよう　未来塾』を制作したほか，定時番組では『あさイチ』『サラメシ』『プロフェッショナル　仕事の流儀』『探検バクモン』など，特集番組では『BS1スペシャル』「ブレイブ　勇敢なる者“えん罪弁護士”完全版」，『NHKスペシャル』「シリーズ　人体　神秘の巨大ネットワーク」などを制作した。

BSPでは，定時番組で『アナザーストーリーズ運命の分岐点』『コズミック フロント☆NEXT』

『美の壺』『おとうさんといっしょ』などを制作したほか，特集番組では『異世界ホテル旅』『スーパープレミアム』「最強の牛肉！　頂上決戦」などを制作した。

テレビ国際放送では『HAIKU MASTERS』『Japanology Plus』『Science View』，特集番組『Fukushima TIME／LAPSE』などを制作した。

また，スーパーハイビジョンによる映像コンテンツの制作にも取り組み，『皇室“奇跡の秘宝”』『インタラクティブ８Kビューアー“原爆の絵”』などを制作した。

このほか，「東京国際キルトフェスティバル」や「国際バラとガーデニングショウ」「おかあさんといっしょスペシャルステージ」などのイベントの企画・運営，放送大学の授業番組の制作を行った。

３．NHKグローバルメディアサービス

NHKの報道・スポーツ・国際部門を支援する関連会社として，デジタルコンテンツ時代にふさわしい，多様なニュースと魅力ある番組を制作する一方，モバイル端末やデジタルサイネージ向けのニュース提供事業を展開している。

17年度は，NHKからの委託で，BS1を中心とするニュース制作，番組制作，スポーツ中継，番組・ニュースの字幕制作，デジタル放送のデータ制作，映像取材と編集，通訳・翻訳，映像の海外送受信など，多角的な業務を引き続き展開した。

このうち，ニュース系では，『BSニュース』『ワールドニュース』『東京マーケット情報』『NHK手話ニュース』などを放送するとともに，海外向けのラジオ放送『日本語ニュース』の制作に当たった。

番組系では，総合テレビで新番組『４時も！シブ５時』の演出を担当したほか，16年度に立ち上げた総合テレビの『グッと！スポーツ』，BS1の『スポーツイノベーション』の制作本数を大幅に増やし，ピョンチャン五輪・パラリンピック関連の特集番組も多数制作した。国際放送では，新番組『#TOKYO』『GRAND SUMO Preview』をスタートさせたほか，『GRAND SUMO Highlights』『CYCLE AROUND JAPAN』の制作本数を増やした。

スポーツ番組では，プロ野球や大リーグ，Jリーグなどの中継に加えて，２～３月には『ピョンチャンオリンピック・パラリンピック』の放送に力を入れた。また，８Kソフトの充実にも取り組み，ピョンチャン五輪やNHK杯フィギュアなどで８K制作を進めた。

字幕制作では，総合テレビで午前７時から深夜０時までのすべてのニュースに字幕を付けたほか，ピョンチャン五輪の競技中継や衆議院議員選挙の開票速報にも字幕を付与した。大阪・名古屋・福岡・仙台局では，夕方のニュース情報番組と『ニュース845』の字幕付与を引き続き実施した。

デジタル分野では，関東甲信越各局のデジタルニュースの制作を順調に行ったほか，16年度に開始した九州・四国のデジタルニュースの制作を，従来の５局から11局に拡大した。

バイリンガルセンターでは，BSの国際情報番組で海外の放送局のニュース番組の通訳を担当した。また『NHKニュース７』や『ニュースウオッチ９』に続き，新たに『18時のニュース』を対象に，英語による副音声の放送を開始した。国際放送では，英語のニュース原稿作成などに加え，日英の同時通訳の24時間待機を始め，海外発信を支援している。

国際回線のコーディネートでは，世界各地で頻発したテロ事件や災害などの緊急報道や，北朝鮮情勢，フランスやロシアの大統領選挙，アメリカのトランプ大統領の動向，ピョンチャン五輪・パラリンピックなど，緊迫した世界情勢からスポーツ中継まで多彩な業務に当たり，激増するIP伝送にも的確に対応した。

アーカイブス事業では，地域局のニュースの編集済み映像の人権・プライバシー保護業務を開始した。

モバイル端末向けのサイト「NHKニュース＆スポーツ」は，NHKニュースやスポーツ，気象情報などのコンテンツの充実に取り組み，NHKの災害報道の一翼を担うサイトとして積極的に情報を提供している。また，デジタルサイネージでは，各地の大型画面をはじめ，企業のオフィスや公共交通機関，学校施設などにニュースを提供し，順調に提供先を増やした。航空機内サービスでは日本の魅力を紹介するコンテンツが好評で，提供するエアラインが増えている。

４．日本国際放送

３か年経営計画（15～17年度）の最終年度として，その柱である「NHKによるテレビ国際放送の強化」と「JIB独自の業務の開発・充実」に取り組んだ。

NHKからの受託番組では，10の定時番組と特集を制作した。このうち『TOKYO EYE 2020』

では，制作部門とプロモーション部門が連携し，タイの人気インスタグラマーをリポーターとして日本に招へいし，本人がロケと同時進行でSNS発信を行ったり，帰国後にタイの放送局の番組に出演したりして，番組やNHKワールドTVをPRした。

受信環境整備・プロモーション業務では，重点地域である北米，アジアのほか，17年度はドイツ，ロシアなどでも受信対象地域の拡大が実現した。これによりNHKワールドTVの視聴可能世帯数は17年度末現在で世界のおよそ３億世帯となった。

編成・送出部門では，ピョンチャン五輪のNHKワールドプレミアムの放送において，権利がなく国際発信が認められてない動画映像に，生で静止画を上乗せする対応を初めて行った。

インターネット受託事業では，多言語化プロジェクトの一環として，中国語，インドネシア語，韓国語，スペイン語，ベトナム語，タイ語，フランス語に対応したVOD配信サービスを開始したほか，旅行や観光関連の情報を閲覧できるトラベルポータルサイトを新たに開設した。

jibtv枠における独自番組では，日本の中小企業が持つ高い技術やサービスを紹介する『Japan Biz Lab』や，北米やアジアで国境を越えて物流を支えるトラックドライバーを追った『Future Highway Express』などのシリーズを放送した。

独自事業では，外国人の料理人が日本料理の技術を競うコンテスト「和食ワールドチャレンジ」事業の企画・運営を農林水産省から受注し，世界６か所での予選の後，東京で決勝大会を開催した。㈱三菱総合研究所より，日本の企業等の活動を映像取材して海外の放送局等へ提供する「Catch Asia! Media Network」の事業譲渡を受け，自主事業としてその運営を開始した。

アジアでの事業展開では，ミャンマーの放送局MNTVと共同で映画「My Country My Home」を制作したほか，４回目となる日本文化紹介イベント「プエドー」をヤンゴンで開催し，１万2,000人を集客した。ベトナムでは，地元の教育専門チャンネル（VTV7）による『いないいないばあっ！』オリジナル版の制作を支援するため，日本で制作スタッフの研修を実施したほか，PRイベントをベトナム各地で開催した。

５．NHKプラネット

地域貢献を目指す唯一のグループ会社として，地域放送番組の制作，地域情報の全国および海外への発信を通じてNHKを支援するとともに，地域との結びつきを強くする各種イベント・美術展の企画運営，映像制作事業などを展開した。

本社では，『うまいッ！』『食材探検　おかわり！にっぽん』『釣りびと万歳』のほか，『あさイチ』のコーナー「ピカピカ☆日本」や『ひるブラ』といった生中継番組，震災復興支援番組『きらり！えん旅』を制作した。事務局を務める「NHK公開復興サポート　明日へ」では，東日本大震災と熊本地震の被災地を支援する公開番組・イベントを実施した。

近畿総支社・四国支社では，『バラエティー生活笑百科』や『歴史秘話ヒストリア』，Eテレ関西発の『きょうの料理』『趣味どきっ！』『俳句王国がゆく』（四国支社），また，外国人に日本各地の魅力を紹介する『J-Trip Plan』を制作した。事業では，大阪市などが組織した実行委員会主催の「大阪港開港150年記念式典」の企画・運営を行ったほか，「特別展　国宝」「北斎－富士を超えて－」などの展覧会をNHKと共同で開催した。また，NHK大阪ホールの管理運営業務も行ってきた。

中部支社では，『さらさらサラダ』『Uta-Tube』『日曜Tube』『超絶　凄（すご）ワザ！』などの番組制作事業，「東儀秀樹×古澤巌×coba全国ツアー」「体感！戦国城下町・岐阜信長公ギャラリー」などのイベント事業，「NHK静岡局ほか新会館公開スペース制作業務」「地域映像アーカイブス事業」などを実施した。

中国支社では，『プロフェッショナル　仕事の流儀』「野球の神様に、愛されるほどに　プロ野球スカウト・苑田聡彦」や『英雄たちの選択』「日朝国交を回復せよ！対馬　宗義智の秘策外交」などのほか，４Kスーパーハイビジョンで，『シリーズ　瀬戸内宝石箱』を制作した。また，NHK広島局開局90年の記念イベント「レッドシンフォニー～“赤”につながる音の旅～」を実施した。

九州支社では，『はっけんTV』『アサタビ！』のほかに『九州沖縄特集　阿蘇に復興の灯をともしたい』や『神宿る島 沖ノ島』『なるほど実感報道ドドド！「あなたも危ない！？中高年登山“意外な落とし穴”」』などの番組を制作した。事業では，『NHK公開復興サポート　明日へin熊本』，『大河ドラマ』「西郷どん」関連イベントを実施した。

東北支社では，東日本大震災の復興関連企画として『あさイチ』シリーズの秋編・冬編，『ETV特集』『明日へ　つなげよう　復興サポート』『クローズアップ東北』を制作。『クローズアップ東

北』は後に国際放送に展開した。また，観光需要を喚起する東北の魅力を伝えるため『新日本風土記』や『おいで、東北　君に見せたい　東北がある』シリーズ，国際放送の『トレインクルーズ』，地域情報番組『ひるはぴ』などを制作した。また，『NHK公開復興サポート　明日へ』を南相馬市で実施した。

北海道支社では，『さわやか自然百景』や新春スペシャル「日本の自然　20年の歩み」，国際放送では『Wild　Hokkaido！』などの自然番組を制作。『NHKニュース　おはよう北海道』『つながる@きたカフェ』などの地域情報番組，金曜夜間では『いくぞ～！北の出会い旅』，土曜午前はツイッターと連動した『穴場ハンター』などを制作した。

６．NHKプロモーション

放送関連イベントの企画・運営をはじめ，展覧会，コンサート，フォーラム・シンポジウム，各種式典，講演会などのイベント事業を実施した。

17年度は，展覧会では「ティツィアーノとヴェネツィア派展」「ミュシャ展」「特別展　茶の湯」「アルチンボルド展」「特別展　戦国！井伊直虎から直政へ」「特別展　深海2017」「ゴッホ展」「皇室の彩　100年前の文化プロジェクト」「茶碗の中の宇宙　樂家一子相伝の芸術」「フランス人間国宝展」「おさるのジョージ展」「マーベル展」などを実施した。

番組関連イベントでは，「NHK音楽祭2017」「NHKニューイヤーオペラコンサート2018」「NHKバレエの饗宴（きょうえん）2017」「NHK古典芸能鑑賞会」「おかあさんといっしょファミリーコンサート」「Nスポ！2017」「NHKサイエンススタジアム」「This is NIPPON プレミアムシアター Perfume×Technology presents “Reframe”」などを行った。

このほか，「第18回地域伝統芸能まつり」「日中韓芸術祭2017」「ワンワンまつり　みんなでワッショイ！」「古澤巌×ベルリン・フィルハーモニー　ヴィルトゥオージ」「第８回ファーマーズ＆キッズフェスタ」「ふるさとの食　にっぽんの食全国フェスティバル」などを実施した。

７．NHKアート

NHKテレビ番組の美術制作（美術制作進行，大道具等美術用品の製作・運用，装置，装飾，衣装，メイク，かつらなど）や３次元CG映像・VFX・バーチャル映像やグラフィックス等のデザイン制作を行う総合美術会社で，一級建築士事務所，特定建設業，警備業認定，屋外広告業登録の資格を有し，文化施設・イベント等の企画，制作，設計・施工，運営までの業務を行うほか，NHKホールをはじめ12のホール・会館の舞台・照明・音響機器等の操作・運営管理を行うなど，番組美術制作で培ったノウハウを生かした多様な業務を行っている。

17年度は『大河ドラマ』「おんな城主　直虎」や『連続テレビ小説』「ひよっこ」，『大河ファンタジー　精霊の守り人～最終章～』『第68回NHK紅白歌合戦』『NHKスペシャル』などNHK番組の美術業務や，NHK関連イベント「おかあさんといっしょファミリーコンサート」「高専ロボコン2017」「Nスポ！2017」「NHK文化祭2017たいけん広場」「NHK技研公開2017」などの会場設計・施工，展示制作を担当した。その他にも，ドーム球場で実施の「第19回国際バラとガーデニングショウ」「第17回東京国際キルトフェスティバル」「テーブルウェア・フェスティバル2018」「世界らん展日本大賞2018」などのほか，地域活性化イベントの「日本の祭りinしまね2017」「2017“よい仕事おこし”フェア」の会場設計･設営等を行った。さらに10月１日に開館した「福岡市科学館」の常設展示（一部）の展示製作・映像制作を行ったほか，開館記念特別展の企画・設計・施工も担当した。ホール業務では，17年９月にリニューアルオープンしたサントリーホールの改修調整にも携わった。

また「2017衆議院選挙　開票速報」のセットやグラフィックスの制作，ピョンチャンオリンピック・パラリンピックの現地スタジオの製作や，現地における3Dバーチャルのオペレーション業務などNHK報道を支える業務に取り組んだほか，４K撮影による『特集ドラマ』「眩（くらら）～北斎の娘～」や『スーパープレミアム　スペシャルドラマ「荒神」』，８K『特集ドラマ　スニッファー嗅覚捜査官スペシャル』などに取り組み，４K･８K本放送の時代に向けた美術業務をリアルからデジタルまで総合的に担当した。当社が美術業務を担当した『眩（くらら）～北斎の娘～』が第72回文化庁芸術祭テレビ・ドラマ部門大賞を受賞したほか，スタジオセットやCG業務を担当した『NHKスペシャル』「シリーズ　人体　第１集“腎臓”が寿命を決める」が第59回科学技術映像祭の文部科学大臣賞を受賞した。

８．NHKメディアテクノロジー

番組の制作・運行・送出からデータ放送まで，NHKの放送技術業務を幅広く担うとともに，４K･８K高精細映像やVR・3D技術に取り組んでいる。また，放送・営業・事務などNHKの基幹システムの開発・運用業務を担い，高い情報システム技術力で放送事業を支えている。さらに，放送技術分野と情報システム・IT分野で高い専門技術力を併せ持つ企業としてNHKの「公共メディアへの進化」の一翼を担っている。

番組では,『連続テレビ小説』「わろてんか」,『正月時代劇』「風雲児たち～蘭学革命篇（らんがくれぼりゅうしへん）～」や，新番組の情報番組『ごごナマ』や『４時も！シブ５時』など，多彩な番組の制作業務を担った。スポーツイベント中継では,「ピョンチャンオリンピック・スピードスケート」「FIVBワールドグランプリ2017仙台大会」の国際信号制作を担当するなど，実績を重ねるとともに，2020年東京オリンピックに向けた人材育成，スキル拡大を加速させた。

また，18年12月開始のSHV本放送に向け，ドラマ番組や自然番組を中心に４K･８K番組の制作に積極的に取り組んだ。

設備整備関連では，４Kカメラ，４K編集室，８Kプロジェクター等の，４K･８K自社設備を積極的に整備し対応力を強化した。また，放送局で速報スーパー等の送出に使用する緊急初動卓を開発し，熊本局など７局に導入した。

16年に続きNEPなどと共同で“８K＋ドーム型ワイドスクリーン＋モーションライド＋5.1ch”による世界初の「８K：VRライド」を開発し，17年３月にアメリカの「SXSW」，10月にはお台場での「デジタルコンテンツEXPO」で公開した。

情報システム部門では，放送局運行装置更新に向けた編成・送出機能の開発，SHV本放送開始に向けたリソース申請機能の開発，営業・事務系システムの安定稼働に向けた大規模老朽更新を行った。サイバー攻撃対策に向けた技術支援やNHKネットクラブのセキュリティー対応など，NHKならびにグループ全体のセキュリティー強化を推進した。

放送と通信の連携分野では,「NHKニュース・防災アプリ」の充実に向けたコンテンツ開発，国際放送ウェブページの多言語化に関するシステム開発,「ピョンチャンオリンピック」におけるデジタルサービスの開発・運用などを担当した。インターネット同時・見逃し配信の試験的サービスにおいては認証環境の構築や番組情報利用の環境構築，10月の衆議院選挙では選挙システムの開発と運用に加え，CG開発やインターネット開票速報の環境構築など，限られた期間の中で確実に対応した。

17年度は地域放送局のさらなる委託拡大に着実に対応するとともに，新たな地域社員育成施策「育成チャレンジプラン」をスタート。オーダーメイド型のスキルアップ研修や事業所間交流研修などを実施した。

CSR活動の一環として，国連防災戦略事務局からの要請を受け，東日本大震災を記録した3Dドキュメンタリーを，10月のジュネーブ本部，11月の石垣島での国際会議で上映した。

９．NHK出版

NHK出版は，NHKの放送番組テキストおよびNHKの放送に関連した書籍・雑誌，放送関連以外の書籍・雑誌等の出版・販売（電子版も含む）のほか,音楽著作権の管理等を主業務としている。

17年度放送テキストは『きょうの料理』『すてきにハンドメイド』などの家庭向けテキスト,『ラジオ英会話』や『まいにち中国語』などの語学系テキスト,『趣味どきっ！』や『100分de名著』などの趣味・教養系テキスト，計54タイトルを発行した。また，ほとんどのテキストについてテキスト電子版を発行した。新規テキストとしては,『高校生からはじめる「現代英語」』『短期集中！３か月英会話』『おもてなしの中国語』のラジオテキスト，17年度後期から『ロシアゴスキー』のテレビテキストを創刊した。

ドラマ関連書では,『NHK大河ドラマ・ストーリー　おんな城主　直虎』の後編･完結編,『NHK大河ドラマ・ガイド　西郷どん』の前編，およびそれらの電子版も刊行した。また『連続テレビ小説』については,「ひよっこ」のドラマ・ガイドPart２,ノベライズ下巻,「わろてんか」のドラマ・ガイドPart１・２およびノベライズ上・下巻などを刊行した。その他，NHK出版新書『「司馬遼太郎」で学ぶ日本史』や『NHK　ニッポン戦後サブカルチャー史　深掘り進化論』などの番組関連書を刊行した。また『100分de名著』の別冊として,『別冊NHK100分de名著　読書の学校』シリーズを立ち上げた。

上記以外にも，NHK出版新書で『子どもの脳を傷つける親たち』や『シリーズ・企業トップが学ぶリベラルアーツ』３点,『絶滅の人類史』な

どを，NHKブックスで『維新史再考』などを刊行した。実用書では，『きょうの料理　わたしのいつものごはん』『NHK趣味どきっ！MOOK“ものすごく”体が硬い人のための柔軟講座』などを刊行した。

また，引き続き『NHK語学テキスト 音声ダウンロードチケット』を刊行した。

10. NHKビジネスクリエイト

NHKビジネスクリエイトは，NHKグループの放送支援，インフラ支援業務および事務支援業務を一元的に実施する総合支援会社として，各分野の専門性を生かした事業活動を展開している。

17年度は，平成27～29年度経営計画「揺るがぬ信頼　たゆまぬ挑戦　公共放送の総合支援企業へ」の最終年として多様な事業展開と事業改革に取り組んだ。

放送支援分野においては，台本・一般印刷事業で，営業局ポスティング対策資材の増加やDFS（ドキュメント・ファイリング・サービス）事業が売上目標を大幅に上回った。番組編成事業では，17年度から始まった土日祝日の日勤時間帯および宿泊勤務時間帯のBS運行対応を確実に実行し，ピョンチャンオリンピック・パラリンピックでもその運行業務を行った。放送車両事業部では九州豪雨や衆議院選挙対応などに的確に対応した。

インフラ支援分野においては，テナント事業で，11月から渋谷コロンバンビルのサブリースを開始し放送センターのオフィススペース不足解消に努めるとともに，当社が保有する共同ビルの改補修を進めオフィスの快適性を向上させた。技術事業では，NHKレイアウト変更関連工事や小規模通信工事，セキュリティーゲート等の工事を受注した。

事務支援分野では，NHKグループを対象とするシェアードサービスについて安定的な運用を図るとともに，さらなるサービス改善に向け取り組んだ。人材派遣・字幕制作事業では派遣数を増やし，字幕制作のオペレーション業務も着実に遂行した。地域支社においては，ほぼすべての支社で考査モニター関連業務や車両運用調整業務を受託するなど，地域拠点局への支援をさらに充実させた。

11. NHKアイテック

放送・通信・情報分野での総合技術会社として，送信・受信・映像・情報・建築関連技術をベースに，コンサルティングから設計・施工・保守まで一体とした事業を展開した。

全国の基幹局・中継局，共同受信施設の保守業務を受託し，NHK送受信設備の保守業務を全面的に担当している。定期保守の着実な実施のほか，17年７月の台風３号および九州北部豪雨，第48回衆議院議員選挙放送期間中の大型台風21号による放送所停電バックアップ対応など，自然災害時の緊急出向において，NHKの「放送電波確保」に注力した。また，ピョンチャンオリンピック放送期間中は「放送電波確保」「事故防止」の強化期間と位置づけて取り組みを強化した。

一般業務では，AMラジオの強靱（きょうじん）化に向けた民放のFM補完局整備をはじめ，700MHz帯携帯基地局整備に伴う放送電波の障害対策，４K･８K放送の普及に向けた調査研究，防災行政無線システムの整備，ケーブルテレビや民放等における送信設備，送出設備，伝送設備，同録装置などの整備を進めた。

16年に策定した中期経営計画に沿った新生アイテックのスタートの年として，高度な内部統制環境の定着，企業風土の刷新，新たな業績管理等の取り組みを進めた。

12. NHK文化センター

NHK文化センターは全国45教室（18年４月１日現在）で教養・趣味・暮らし・芸術・健康など年間６万4,000に及ぶ多彩な講座を展開，会員数は21万人余りである。

17年度はNHKグループの一員として，引き続きNHKと視聴者をつなぐ仕事の拡充に務めた。特に『100分de名著』や『びじゅチューン！』，大越健介キャスターや鈴木奈穂子アナウンサーはじめ10人のアナウンサーの講座，Eテレ『ニャンちゅうワールド放送局』の「おねんどお姉さん」こと岡田ひとみさんや気象キャスターの講座など，出演者・制作者による講座を実施した。

さらに，番組に関係する出演者や制作者が講師となり地域の視聴者を対象に開く無料講演会「NHK公開セミナー」を受託業務として実施。17年度は全国17会場で『大河ドラマ』の「おんな城主　直虎」「西郷どん」，『大河ファンタジー精霊の守り人～最終章～』『NHKスペシャル』「シリーズ　人体　神秘の巨大ネットワーク」，『コズミック　フロント☆NEXT』などをテーマに開催し，１年間でNHK番組関連の講座すべて合わせ３万3,000人を超える来場者を集めた。

また，日本の文化を海外で披露し市民同士の交流を図る「国際交流祭」は31回目となり，目覚ま

しい発展を遂げているミャンマー最大の都市ヤンゴンで，11月25～26日の２日間開催した。日本の琴とビルマの竪琴の競演や，現地日本人学校の子供たちの合唱など６団体によるにぎやかな舞台と，13団体による日頃の講座で培った展示が行われた。雑誌やテレビなど多くの地元メディアに取り上げられ，来場者は1,350人に上った。

13．NHK営業サービス

13年秋に10年後を見据えた「NBS経営ビジョン」を取りまとめた。それを具体化して，３か年の中期経営計画「NBS経営プラン27-29」を策定しており，最終年度にあたる17年度は，受信料収入の確保と効率的なNHK営業活動の展開に寄与するとともに，公共放送および放送メディア全体の発展や革新を支援する活動を遂行した。

受託業務については，視聴者からNHKに届け出のあった放送受信契約書等の情報処理，全国４か所のコールセンターにおける電話を中心とした視聴者対応，受信契約および受信料収納に関わる自治体･事業所対応，集合住宅対策や未収者対策，法人委託事業者の訪問員等に対する講習会や映像による教育支援，営業活動の支援資材であるパンフレット等の企画・編集・制作等の各種業務を実施した。また，NHK営業拠点の集約（17年７月兵庫県，18年２月静岡県）およびこれに伴うNBS事業拠点の集約にもシステム面のサポートを含め遺漏なく対応した。

自主事業については，NHK関連団体のコールセンター業務，14年度に一般社団法人700MHz利用推進協会から受注した「700MHz帯を利用する特定基地局によるテレビ受信障害対策コールセンター構築・運営業務」を継続実施してきたが，基地局も増えて本格的な稼働が始まり，福岡にもコールセンターを設けた。

企業統治やリスク管理についても適切に対応した。特に各事業部門のそれぞれが大量の個人情報を取り扱っており，個人情報保護は業務の生命線である。このため，業務プロセス・体制を不断に見直すとともに，定期的に研修等を実施している。

なお，個人情報取扱事業者として，プライバシーマークを取得しており，審査の結果，18年５月に10期目の更新を行うことが決定している。

Ⅱ．関連会社

１．放送衛星システム

株式会社放送衛星システム（略称B-SAT）は，BS放送における基幹放送局提供事業者として放送衛星を調達・所有し，その管制，運用のほかアップリンク業務，全局EPG（電子番組表）のデータ集配信業務を行い，BS放送の基本的なインフラ提供の役割を担っている。

17年度は，放送衛星３機（BSAT-3a・3b・3c）により，日本に割り当てられているBS放送用の全周波数（12中継器）を使って，31番組のBSデジタル放送を視聴者に届けたほか，BS17chでは，４K･８Kの試験放送を実施している。引き続き，放送衛星を安定的に運用できるよう備えるとともに，BS放送の継続確保に取り組んだ。

17年４月，BSAT-3cの姿勢異常が発生し，放送中の一部チャンネルが一時，中断する放送事故が発生した。該当チャンネルをBSAT-3aおよび3bへ移すことにより，放送を復旧させた。

16年から製作を進めていたBSAT-4aは，17年９月に打ち上げ，11月には静止軌道上での引き取りを行い，18年２月からは４K･８K試験放送（17ch）に使用している。また，18年12月の新４K８K衛星放送の開始に向けて，17年11月にはアップリンク用新局舎（菖蒲）を竣工させるなど，順調に準備を進めた。

２．NHK Cosmomedia America，Inc.

NHK Cosmomedia Americaはアメリカでの番組制作と国際映像展開の拠点である。番組制作の柱は，NHK番組の取材制作とリサーチ，機材手配などの支援業務。MLB（メジャーリーグ野球）などのスポーツ中継も請け負っている。国際映像展開では，「TVジャパン」のチャンネル名でアメリカ・カナダ在住の日本人・日系人向けに，NHK番組を中心とする日本語での24時間有料配信事業を行っている。契約数は18年３月時点でおよそ６万8,000，ほかにおよそ400のホテルでも視聴可能である。なお，１日平均５時間はノンスクランブル配信である。また，18年１月にSVOD事業・dライブラリジャパンを開始した。

３．NHK Cosmomedia (Europe) Limited

NHK Cosmomedia（Europe）はロンドン本社

とパリ事務所を拠点に欧州における番組制作と国際映像展開を行っている。番組制作部門は，NHKの制作力・技術力を生かした高品質な番組作りやリサーチ，通訳，機材の手配などのコーディネート業務を行っている。また「JSTV」のチャンネル名で，NHKや民放の番組など日本語の有料放送を実施している。衛星やCATV，さらにインターネットを通じて欧州，ロシアやCIS（独立国家共同体）各国，中東，北アフリカなど60を超える国で24時間放送し，500以上のホテルにも配信している。ニュースを中心に１日平均５時間は在外邦人の情報確保のためのNHK国際放送としてノンスクランブルで放送している。

４．ビーエス・コンディショナル　アクセスシステムズ

略称は「B-CAS（ビーキャス）」。NHKBSデジタル放送の受信確認メッセージや有料放送の視聴，それにデジタル放送番組の著作権保護などに利用されているICカード（B-CASカード）の発行・管理を行っている。

17年度は，B-CASカードの不正改ざんへの対応を進めるとともにカードの流通・在庫の適正化を進めた。17年度のカード発行枚数は1,030万枚，累計発行枚数は２億5,831万枚となった。

また，社会的インフラを担う企業として，引き続きコスト削減に努め，利用者負担の軽減を図った。

Ⅲ．関連公益法人等

１．NHKサービスセンター

公共放送の広報・視聴者サービスを担う一般財団法人として，NHKと一体となって視聴者との結び付きを強めるさまざまな業務を行った。

広報番組や番組ポスター，ウェブ等でのNHK放送番組の広報プロモーション業務では，『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』でTwitterやLINE等のSNSを活用し，多面的なPRを行った。地域発ドラマでは，広報印刷物を作成し，地域放送局の広報活動や営業活動を支援した。

NHK広報イベント・展示業務では，NHKホール等での番組公開や子ども向けイベントを各地で開催。『ピョンチャンオリンピック』『第68回NHK紅白歌合戦』などの８Kスーパーハイビジョンの普及・PRイベントのパブリックビューイングを幅広い層に向け実施した。また『大河ドラマ』『連続テレビ小説』の番組パネルや小道具を全国各地で展示し，番組広報に努めた。

NHK番組情報誌ウイークリー『ステラ』は50号発行したほか，ステラMOOK『ひよっこ　メモリアルブック』『わろてんか　メモリアルブック』『ラジオ深夜便　ファンブック2018』を発行した。

NHK語学CD等のコンテンツ制作・発行・配信業務では，利用者の学習効果の向上を図るため，NHK語学講座番組の音声テキストCDを番組と連動した内容で毎月発行したほか，NHKのアーカイブス音源を活用したNHKCD「立川談志　落語集成1964-2004」「NHK昭和名人寄席」等を発行した。

「NHKスタジオパーク」「NHKホール」「NHKみんなの広場ふれあいホール」「NHK放送博物館」では来館者を対象としたイベントや多彩な視聴者サービスを実施した。「NHK放送博物館」では，８Kの試験放送の番組と連動したトークショーや講談，演奏会等を実施し，1956年の開館以来の入館者数が500万人に到達した。

「NHKふれあいセンター」では，電話，メール，FAX等により視聴者からの要望・問い合わせが99万2,000件寄せられ，迅速・的確に対応した。

社会奉仕業務として月刊誌『ラジオ深夜便』の全国の老人福祉施設への寄贈や，（社福）日本点字図書館の点字週刊誌『NHKウイークリーガイド』の編集・発行への助成のほか，「NHK杯全国中学校放送コンテスト」をNHKなどとともに主催した。

２．NHKインターナショナル

外務省や国際交流基金など，公的資金による発展途上国の放送機関への番組提供や支援業務を行っている。また，公共放送としてのノウハウと映像コンテンツを生かして，国際交流や海外放送機関への取材協力業務を行い，相互理解の推進を図っている。

17年度は，JICAの委託を受けて始まった２年半にわたる「ウクライナ公共放送組織体制強化プロジェクト」を継続し，番組制作能力の強化，緊急や災害時の報道体制の構築を中心に指導等を実施した。「コソボ国営放送局能力向上プロジェクト」は２年目を終えて，引き続き「放送機材の運用」「番組制作力強化」を重点に支援を行うことにしている。15年から始まった「バングラデシュ教育テレビ設立支援プロジェクト」は，首都ダッカの治安の回復を受けて，中断していた専門家の

派遣を17年10月より再開し，研修等を継続した。一方，「南スーダンTV・ラジオ（SSBC）組織能力強化プロジェクト」については，19年２月まで延長が決まったが，現地の治安悪化もあり，現地でのプロジェクト活動は中断となっている。この他，VTV（ベトナム国営テレビ）に対しては，農業番組制作能力向上のための研修に加え，新たに天気予報・災害報道の研修も行った。

海外放送機関への番組の提供については，外務省の文化無償協力と国際交流基金の事業を合わせて12か国12機関に2701本の番組を提供した。日本のメディア芸術を紹介する事業としては，文化庁メディア芸術祭の受賞作品等を海外のフェスティバル等で紹介する事業を文化庁から受託し，17年度は，現地の関連団体と共催する「企画展」や上映・展示等を17か所で実施した。

中国関連事業では，中国国内の防災への関心の高まりを受け設立された「中国緊急報道センター」のホームページに掲載する動画「防災ミニ知識」を17年度も45本（各３分）を制作した。

世界の中での日本理解を促進するため，17年度は海外に提供するNHK番組の国際版（スペイン語，フランス語，アラビア語），独自企画番組，合わせて117本を制作した。

17年度もこれまで同様に，NHK国際放送局・報道局と連携して７か国・10放送機関に対し10件の取材協力業務を行った。

国際コンクール参加番組は43本，海外交流用英語版は15本を制作した。テレビ国際放送のNHKワールド用にも，定時番組『美の壺』『ドキュメント72時間』『プロフェッショナル　仕事の流儀』など110本の英語版を制作した。また『連続テレビ小説』の「カーネーション」と「とと姉ちゃん」のポルトガル語版，英語版，スペイン語版等を合わせて538本制作した。

海外の視聴者からNHKに寄せられる意見や要望，海外の委嘱モニターから送られてくるモニター報告を整理してNHKに報告し，番組制作・番組編成に役立てた。

海外からNHKへの訪問者の接遇件数は91件で，94の国と地域および国際機関から要人を含めて904人がNHKを訪問した。

教育コンテンツの国際イベントである「第44回日本賞」の運営等を実施した。今回はコンテンツ，企画の両部門について309件の応募があった。

３．NHKエンジニアリングシステム

NHKの技術開発成果を広く提供する技術協力・周知あっせん，８Kスーパーハイビジョン等の新技術の実用化開発，放送の受信環境維持改善に関わる調査業務などを実施した。

17年度，８Kの普及促進では「NAB2017」等での展示のほか，「ピョンチャン五輪2018」等のパブリックビューイングの技術運用を実施した。また，国立がん研究センター等と共同で８K技術を用いた腹腔鏡手術システムを開発し，３月に初の臨床試験を開始し，大腸がんに対する手術を行った。さらに，総務省遠隔医療実証実験を行った。

また，九州国立博物館の多言語化システムの導入，映像・音声設備の整備・保守，超高層ビル等によるテレビ受信障害予測，技術セミナーなどによる新技術の普及・技術者育成を実施した。

５年目を迎えた放送の受信環境調査では，17年度事業計画の重点項目の一つである受託業務の質的向上の一環として，さらなる放送の安定受信環境の維持改善に向けてこれまでの調査データを基に「受信環境本」として取りまとめた。

８K本格放送時代を迎え，「NHKの研究開発成果を広く社会に還元することで社会の発展に寄与する」という当財団の役割を引き続き果たしていくため，研究開発力の強化とそれを支える企業統治力の強化を目指し「2018-2020年度３か年事業計画」を策定した。

４．NHK放送研修センター

NHKの職員研修を事業の基本に据え，民間放送局，ケーブルテレビ局，制作プロダクション等多様な放送界の人材育成を行っている。また，ことばコミュニケーション技術などの一般への普及事業や「人にやさしい放送」を目指すNHKの字幕放送や解説放送の充実にも協力している。

NHK職員に対する研修では，公共放送の担い手にふさわしい高い使命感と専門性を兼ね備えた人材を育てるため，マネジメント力強化，ダイバーシティ推進などを目指し，新採用者研修，基礎（新人層）研修，専門研修，中堅層・リーダー層研修，指導・管理者研修など114研修165回を実施した。受講者数は計5,909人であった。

また，コンプライアンス意識の徹底を図るため，eラーニングで，「事例に学ぶ，『NHK倫理・行動憲章』『行動指針』」をはじめ14研修を実施し，受講者数は延べ１万6,000人を超えた。公金意識研修は，新採用者，中堅層，指導・管理者層を対象に実施し，全国で839人が参加した。

NHK関連団体に対する研修については，NHKグループ全体の総合力向上を目指し，新採用者か

ら経営幹部まで階層別研修を中心に実施した。

民間放送局，ケーブルテレビ局，海外放送局，制作プロダクションに対しては，番組制作のノウハウ，放送技術の基礎や最新技術の習得を図る研修を実施した。

このうち民放連関連では，放送倫理をテーマとした「放送人基礎研修」や若手技術者を対象とした「テレビ技術研修会」を実施した。また，ケーブルテレビ局向けには「番組制作コース」と「伝送技術コース」「営業・管理コース」を設け，新入社員や初心者を対象とした専門研修を実施した。海外の放送局に対しては，国際協力機構（JICA）からの委託による放送技術や番組制作の研修を実施した。

また，NHKを志望する学生を対象にインターンシップを行った。番組制作，報道記者，映像ジャーナリスト，放送事業マネジメント，放送技術の５つのコースを設けて実施した。

ことばコミュニケーション事業では，「日本語センタースクール」「NHK話しことば通信添削講座」「朗読事業」「先生のためのことばセミナー」「ビジネスパーソンを対象にしたセミナー」「放送支援のためのセミナー」を実施した。教育現場を対象としたことばコミュニケーション事業では，大学・専門学校・小中高校で13の講座を実施した。一方，ことばコミュニケーションのノウハウを社会に還元する企業･団体研修は，62の企業･団体からの要請に応えた。

そのほか，放送番組のアナウンス等の業務では，ピョンチャンオリンピック・パラリンピックにおいて「ユニバーサル放送」の対応を行った。これは目の不自由な人向けにテレビの副音声で，選手の動きや会場の様子など，細かい解説を加えた実況を行うものである。このほか，ラジオ第２『ことば力アップ』のテキストを執筆し，番組にも出演した。

５．NHK学園

NHKの教育番組を利用した高等学校教育のほか，生涯学習教育，社会福祉士等の国家試験受験資格を取得するための通信教育を行い，放送の利用促進に寄与するとともに，NHKの教育番組の充実・改善に協力している。

〔通信制高等学校〕

NHKの放送を利用して学ぶ広域通信制高校。東京本校のほか全国33の協力校等でスクーリングを実施。本校では，15年度より，週３日間の登校で放送視聴のポイントを指導し，自学自習の実践力を育成する登校コースを開設。18年３月に登校コースの第１期生56名が卒業した。16年度より東京本校に「総合教育相談・学習支援センター」を開設し，生徒，保護者等の学習支援や教育相談体制を強化した。また，不登校生を主な対象とする「ネット学習Do itコース」を東京本校，北海道（札幌），東北（仙台･盛岡），大阪，九州（福岡）に続き名古屋にも拡大した。生徒総数3,343人，卒業生1,163人。これまでの卒業生総数は７万5,212人となった。

〔通信制福祉教育〕

専攻科は介護福祉士の国家試験を目指す学生が全て修了した。修了生総数は３万5,278人。

社会福祉士養成課程は，未経験者等を対象とする全カリキュラム履修の一般養成科１年６か月コース，福祉系大学卒業者や精神保健福祉士を対象とする一般養成科１年コース，福祉系大学卒業の実務経験者や公務員等を対象とする短期養成科９か月コースの２課程３コース。学生総数517人，修了生274人，修了生総数3,727人。国家試験合格率は全国平均30.2％に対し一般養成科65.6％，短期養成科は58.0％。

〔生涯学習〕

通信講座では，俳句・短歌・川柳・書道・写真・絵手紙・古文書など42講座で３万3,343人，オープンスクールでは，3,776講座で３万5,728人が受講した。NHK共催の全国短歌俳句大会には，短歌に４万6,187首，俳句に９万6,221句の応募があった。

６．NHK交響楽団

オーケストラ演奏により，音楽芸術の向上発展を図り，その社会文化使命を達することを目的とした公益財団法人であり，日本を代表する交響楽団として質量ともに最高水準の演奏を内外の音楽ファンに提供している。

世界的に人気のあるパーヴォ・ヤルヴィが首席指揮者に就任して３年。N響は音楽面でも大きくブレークスルーを果たす一方，17年春のヨーロッパ公演ではその高い演奏能力で世界の一流オーケストラとしての称賛を受け，世界に羽ばたくN響を象徴する出来事となった。

N響創立90周年となった16年から大がかりなプログラムに果敢に取り組み，16年度は，パーヴォによるマーラー「一千人の交響曲」（９月）や名誉音楽監督シャルル・デュトワ指揮のビゼー歌劇「カルメン」（12月），17年９月にはパーヴォとN響で初の演奏会形式によるモーツァルト歌劇「ド

ン・ジョヴァンニ」を好演。12月にはドイツの巨匠エッシェンバッハによるベートーヴェン「第９」，さらに18年３月にはパーヴォが師事したバーンスタインのミュージカル「ウエスト･サイド･ストーリー」（演奏会形式）で喝采を浴びた。

ヨーロッパ公演では，世界の一流オーケストラがひしめく地で，N響の演奏力の高さを知らしめることができ，再び公演してほしいとのリクエストもあった。17年にはANAホールディングス㈱との間で海外公演支援の連携協定を締結。18年９月にはベトナム公演を予定しているほかアジア地域，さらにヨーロッパ公演も視野に入れて海外への飛躍を期するものである。

７．NHK厚生文化事業団

多様化する福祉へのニーズにきめ細かく応えるため放送と連携しながら障害者福祉，高齢者福祉などの事業を行っている。また，福祉団体を支援するためのチャリティーイベントを実施している。

〔障害者福祉事業〕

○パラリンピック選手が小学生と障害者スポーツを一緒に楽しみ交流する出前授業「パラリンピアンがやってきた」を，首都圏のほか，石川県金沢市，長野県飯綱町などで計８回実施した。また，2020年の東京パラリンピックの会場になる千葉市で，パラリンピック選手を招いてパラリンピックの課題を話し合うイベントを放送と連動して実施した。

○親子の個別相談に応じる「こどもの発達相談会」を14回実施したほか，障害がある子どもたちを対象とした療育キャンプを各地で行った。

○発達障害やがんなどに関する最新情報と，支援の在り方を伝えるフォーラムを15回行った。

○障害者や高齢者などの災害弱者も取り残さない「インクルーシブ防災」をテーマにした新しいイベントを熊本市と宮城県石巻市で実施した。

〔高齢者福祉事業〕

○高齢者の健康と生きがいをテーマにした『ハートネットTV　めざせ！いきいき長寿』の収録とゲストの講演会を行うイベントを各地で６回行った。

○関心の高い「認知症」に関するフォーラムを全国７か所で実施，併せてテレビ番組でも伝えた。

〔東日本大震災被災地支援事業〕

○17年度も引き続き地域福祉を支援する「わかば基金」の「東日本大震災復興支援部門」を通じて，被災地で尽力する４つの福祉グループに，ミシンや映像機材など，活動に必要なものを支援した。また，被災地の福祉施設が作った製品の販売会を東京のNHKで実施した。

〔事業団が長年作品を募集し記録する事業〕

○高齢社会の生き方を描く小説「NHK銀の雫文芸賞2017」や，障害者の体験や福祉の実践を記録する「第52回NHK障害福祉賞」には，多くの応募があった。その入選作品を出版するとともに，テレビやラジオで放送した。

〔福祉情報提供事業〕

○NHKの福祉番組や事業団制作の福祉DVD教材を貸し出す「福祉ビデオライブラリー」は，引きこもりや，発達障害などの利用が多く，貸出数は増加している。

〔チャリティーイベント・福祉団体支援〕

○「第51回NHK福祉大相撲」を行い，福祉施設に福祉車両を，春と秋の「歌謡チャリティーコンサート」では障害者や高齢者の施設・団体に介護浴槽や，障害者スポーツ用具を贈呈した。

○地域福祉を支援する第29回「わかば基金」で，全国で42の福祉グループに活動を広げるための支援金や，NHKや関連団体の不用パソコンのソフトを新しくした「リサイクルパソコン」を贈った。

８．日本放送協会健康保険組合

健康保険法に基づき，被保険者と被扶養者に対して，保険給付および各種検診や予防接種の経費補助，メンタルヘルスへの対応などの保健事業等を行っている。

特に，メタボリックシンドロームの予防および改善に関しては，17年度も16年度同様，事業主との協働により特定健康診査・特定保健指導の対象年齢を拡大するとともに，診査の受診率および指導の利用率向上に取り組んだ。

９．日本放送協会共済会

NHK役職員とその家族などの生活向上と，退職者とその遺家族の救済，援護等を行うために，食堂の運営，物品販売，生涯生活設計相談，各種給付・貸付，各種保険の団体扱いおよび転勤者用住宅の管理・運営等の福利増進施策を行った。

放送史ミニ年表

1925. 3.22 **社団法人東京放送局，仮放送開始**
26. 8.20 社団法人日本放送協会，設立
27. 8.13 最初のスポーツ実況中継（全国中等学校優勝野球大会）
28.11. 1 ラジオ体操，放送開始
30. 6. 1 技術研究所設置，テレビ研究開始
31. 4. 6 **第２放送開始**（東京）
35. 4.15 学校放送の全国放送開始
6. 1 海外放送開始
46. 3. 4 協会サイン（NHK）を放送で開始
6.15 放送文化研究所，設置
50. 5. 2 **電波三法公布**（電波法，放送法，電波監理委員会設置法，6.1施行）
6. 1 **放送法による「日本放送協会」設立**
51. 9. 1 **初の民放局，開局**（中部日本放送・新日本放送）
53. 2. 1 **NHK東京テレビジョン局，本放送開始**
8.28 初の民放テレビ局，開局（日本テレビ放送網）
56. 3. 3 放送博物館，開館
57.12.24 FM実験放送，開始
59. 1.10 **教育テレビ放送，開始**（東京）
4.10 皇太子ご結婚パレード，各局ラジオとテレビで実況中継
60. 9.10 **カラーテレビ，本放送開始**（東京・大阪）
62. 3. 1 テレビ受信契約数，1,000万突破
63.11.23 初の日米間テレビ衛星中継実験（受信）に成功
64.10.10 **東京オリンピックの放送**（～10.24）
67.12.31 テレビ受信契約数，2,000万突破
69. 3. 1 NHK-FM全局，本放送開始
69. 5.29 放送番組向上協議会発足
71.10.10 **NHK総合テレビ，全面カラー化**
78. 4. 8 日本初の実験用放送衛星「ゆり」打ち上げ
82. 9.30 テレビ受信契約数，3,000万突破
12.17 テレビ音声多重放送，本放送開始（東京・大阪）
83.10. 3 テレビ文字多重実用化試験放送開始（東京・大阪）
84. 1.23 放送衛星BS－2a打ち上げ
5.12 BS－2aによる試験放送開始
85. 9. 1 緊急警報放送システム運用開始
86. 2.12 放送衛星BS－2b打ち上げ
11.29 文字放送，全国放送を開始
12.25 衛星２波による試験放送を開始
87. 7. 4 衛星による24時間放送開始
89. 6. 1 **NHK衛星放送，本放送開始**
92. 4.21 **CSテレビ放送サービス開始**
94.11.25 **ハイビジョン実用化試験放送開始**
97. 5. 1 放送と人権等権利に関する委員会機構（BRO）発足
99.10. 1 NHKワールドTV24時間放送化
2000. 2.29 衛星放送受信契約数1,000万突破
12. 1 **BSデジタル本放送開始**
01. 7. 2 NHK情報公開を開始
02. 3. 1 東経110度CSデジタル放送開始
03. 2. 1 NHKアーカイブス，オープン
7. 1 放送倫理・番組向上機構（BPO）発足
12. 1 **東名阪の３大都市圏で地上デジタルテレビ放送開始**
06. 4. 1 携帯端末向けワンセグ放送開始
12. 1 **全都道府県で地上デジタル放送開始**
08.12. 1 NHKオンデマンド開始
09. 2. 2 NHKワールドTV24時間完全英語化
11. 3.11 東日本大震災発生，長期間の災害報道
4. 1 BSデジタル放送「BS1」「BSプレミアム」の２波放送開始
7.24 **地上アナログ放送**（岩手県・宮城県・福島県は12.3.31終了）**および全国のBSアナログ放送終了**
12.10. 1 NHK受信料の値下げ
13. 5.31 東京タワーから東京スカイツリーへのテレビ送信所移転
15. 3.22 ラジオ放送開始90周年
16. 8. 1 BSで４K・８K試験放送開始
17.12. 6 最高裁，受信料制度を合憲と判断